



- 青年部部長あいさつ「渦中であって思うこと」
青年部部長 渡辺信行（泉ヶ丘保育園園長）
- 青年部活動（事業）中間報告
- 特集
 - ・ 青年部視察研修（平成16年11月10～11日）
福島県二本松市 中里保育園・まゆみ幼稚園
 - ・ 茨城・青森合同特別研修会（平成16年12月13～14日）
- ぬきうち保育園訪問
 - ・ 勝田すみれ保育園……………ひたちなか市枝川字六所2560
 - ・ 太陽保育園……………東茨城郡美野里町鶴田 136-5

「渦中にあるって思うこと」

青年部部長 渡辺信行

(泉ヶ丘保育園園長)

昨年は国内にあっては集中豪雨、新潟地震、世界的にもスマトラ沖地震による津波被害と天災が続いた一年でした。こういった突発的な危機を迎えた後、「普段の備えはどうなっていたのか」が必ず論議されます。また、最近自己責任という言葉があちこちで使われていますが、要は「自分で出来ることは自分でしなさい」ということと理解しています。先ず自助があり、互助、そして共助、さらに個人・地域で対応しきれないことに対しては国・地方自治体等の公助に頼るのが順序と考えますが、災害に対してのリスクマネジメントについても同様なことが言えるのではないのでしょうか。

さて、振り返って我々の実態はいかがでしょう。経営主体の規制緩和・運営費一般財源化問題・総合施設構想・特区による幼保一体施設、少子化対策が次世代育成支援として方向転換、国の財政状況悪化に伴った補助金の見直し・削減、社会福祉法人の不祥事等々、保育界においても目まぐるしい変化の中、危機的状況が見えています。

表面的には都市部を中心に保育園(所)利用者の急増で、他から見れば「好景気」状態ですが、今後一層少子化が進み、子どもの数が減ってくれば幼稚園が黙っているはずもなく、さらには他の福祉分野を見れば社会福祉法人以外の企業も虎視眈々と参入機会をうかがっているのは間違いありません。既に県内でも人口減少地域では相当厳しい状況にあると思われませんが、対応策を備えているのでしょうか。

確かに、保育園の主たる収入源は運営費や補助金といわれる公的資金です。保育の実施は本来市町村長の責任とされていることから、様々な法規制がかけられているため、やりたいことが好きなように出来る環境ではありません。また、一般企業とは異なり営利を目的とする業種でもありません。しかし、現行の制度では園舎敷地の購入はおろか、増築するにも補助金をあてにしなければならぬ状態に置かれています。今年になり、措置施設でさえ用途制限が緩和されたことを聞くに及び、今後予想される施設の移転や、公立保育所民営化の受託、場合によっては業種転換の必要に迫られるかもしれない我々保育園の普段の備えに大変な不安を感じています。



国は少子化対策をこれまでの保育対策中心の施策から、地域にあって育児をしている家庭総てを対象にした次世代育成支援へと転換しました。そのこと自体は決して間違っているとは思いませんが、私はその中心を担うのは就学前の子ども達の状態を最も理解している保育園だと思っています。それには先ず「自助」。自分たちの意思を発揮できるシステムに改めるための行動を自らが起こさなければなりません。

青年部活動(事業)中間報告

平成16年

4月23日	広報	青年部通信「礎No. 10」編集会議	8名参加
23日	事務局	青年部全体会	21名参加
5月12日	事務局	日保協定期総会	9名参加
14日	広報	青年部通信「礎No. 10」編集会議	6名参加
14日	調査研究	第1回テーマ検討会議	5名参加
6月23日	広報	青年部通信「礎No. 10」発送作業	8名参加
28日	調査研究	第2回テーマ検討会議	4名参加
7月2日	広報	青年部通信「礎No. 11」編集会議	8名参加
		ぬきうち保育園訪問(みくに・ぬいずみ)	
7~9日	事務局	全国青年保育者会議(青森大会)	10名参加
17~18日	研修	経営相談研修会(阿字ヶ浦)	14名参加
30日	広報	青年部通信「礎No. 11」編集会議	7名参加
8月4日	調査研究	第3回テーマ検討会議	4名参加
5日	事務局	青年部役員会	6名参加
25日	広報	青年部通信「礎No. 11」編集会議	8名参加
27日	事務局	養成校懇談会・民保協施設長研修会	6名参加
9月17日	広報	青年部通信「礎No. 11」発送作業	7名参加
28日	調査研究	アンケート構成会議	4名参加
10月15日	調査研究	アンケート発送作業	4名参加
11月10~11日	研修・事務局	視察研修(二本松 中埋保育園・まゆみ幼稚園)	19名参加
15日	調査研究	アンケート集計案検討会議	4名参加
12月13~14日	研修・事務局	茨城・青森合同特別研修会	18名参加
22日	調査研究	アンケート集計作業	4名参加
27日	事務局	青年部全体会	17名参加

平成17年

1月18日	調査研究	データ考察会議	4名参加
20日	広報	ぬきうち保育園訪問(勝田すみれ・太陽)・編集会議	10名参加
2月9日	調査研究	「調査報告書」発送	4名参加

延べ参加人数 219名

視察研修に参加して

納場保育園 萱場祐友

去る11月10日、11日の2日間に渡り、青年部視察研修で福島県二本松市の「中里保育園」、「まゆみ幼稚園」へ出掛けて参りました。「子供の館 中里保育園」は、全国で初めて学校法人で認可を取った園であり、平成13年4月1日より定員45名で開園した保育園です。施設は住宅地内にあり、アットホーム感のある可愛らしい施設でした。地域の要望により開園時間は午前7時から午後9時までと長時間保育（14時間）

で、園庭には様々な木々があり、季節感を感じられるようにりんごの木やヤシの木がありその中で子ども達はのびのびと生活している姿が見られました。この日は、丁度作品展に向けて制作を行っており、一人ひとり制作時用のポンチョを着て等身大の自分を楽しく制作をしていました。姉妹園の「まゆみ幼稚園」とは電話回線を利用しパソコン同士が繋がっており、常に情報を共有ができるようしているそうです。





次に姉妹園である「まゆみ幼稚園」にバス（約5分）で向かい見学をしました。安達町の智恵子の杜公園からほど近い「まゆみ幼稚園」は自然がいっぱいの中にあり、園舎の外壁に絵が描かれていたので（施設内も）質問すると「この壁画は、子どもは、周囲のあらゆる環境から刺激を受け、自分から興味を持って環境にかかわろうとすることによって様々な活動を展開し、充実感を味わうという考えの元、大学生から園舎の壁画を募って描いてもらったのです。子ども達が

に入り、最初に目飛び込むのが園庭と園舎の壁画です。この壁画を見る事によって子ども達が「遊びたい！」と思い、思いっきり遊ぶことができるような楽しい壁画を選び描いてもらったのです。」私達が見てもとてもワクワクするようなどとも賑やかな感じを受けた壁画でした。

幼稚園園長の古渡一秀先生のお話をいただき、その中で『創設者の苦勞を知りたいと自ら中里保育園を建てた』という熱い思いを聞き、自分に何が足りないか、これからどうすべきか深く考えさせられました。最後になりましたが、この研修を計画して下さいました部長初め研修委員ならびに青年部の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



茨城・青森合同特別研修会に参加して

みくに保育園副園長 鈴木龍穂

平成16年12月13、14日の両日、師走に入り何かと気忙しい中ではありましたが、自由民主会館5階において青森・茨城県支部の合同特別研修会が40数名の参加のもとに開催されました。

1日目は、茨城県民間保育協議会青年部事務局長大谷隆氏の開会の言葉に始まり、青森県支部青年部長の中村潤子氏の挨拶、来賓として茨城県民間保育協議会白神章道会長の挨拶、参加者の自己紹介、本部青年部基調報告、各支部活動報告の後に「本部報告」として日本保育協会、常務理事菅原善昭氏より11月26日に政府・与党協議会において合意決定された事項について報告がありました。要約しますと

①民間保育所運営費は現行制度を維持する。
②保育所施設整備費は、次世代育成支援対策交付金（仮称）に再編され、交付金化する。

③産休代替保育士費等補助金、延長保育事業費基本分（公立分）は、税源移譲の対象とし、補助金を廃止する。（一般財源化）という内容ですが、全国保育関係議員連盟の先生方のご尽力、各支部ごとの緊急反対集会の開催・要望活動、カンパ等一連の活動により民間保育園にとって最悪の事態は回避されたということでした。しかし17年度予算編成に向けまだ不透明の部分が残っており各地域において益々の活動を強化して欲しいとの事でした。



次に、特別養護老人ホーム、児童養護施設、知的障害者更正施設の園長を歴任し青森県選出の衆議院議員として活躍されております江渡聡徳氏の講演へ移りました。「今後の保育界の行方について」と題された講演は、「福祉施設に関しては、設置主体制限の廃止、定員の弾力化、公設民営方式の促進等多くの規制緩和による保育サービスの推進が図られる一方、質の向上が求められ、また地域の

子育て家庭に対する支援機能、多様な保育ニーズへの対応が求められている。これからの福祉施設は人口が減少に転じる2006年がターニングポイントとなり、一法人一施設では生き残ることが難しくなるので多施設化を目指して欲しい。地域社会全体を見直し、将来を見越して「経営」し生き残れる施設を作り上げて欲しい。」とのお話がありました。講演の途中に、津島雄二全国保育関係議員連盟会長が挨拶に来られ、「三位一体改革における地方6団体の提案の中にある、民間保育所運営費の補助金削減と税源移譲に関し、これは正しく地方切り捨ての政策で、財政の弱い市町村は今までの保育制度、保育水準は維持



できない。保育は格差なく国が責任を持つべきであり、ぜひ地元に戻り市町村に強力な働きかけをして欲しい。」とのお話がありました。以上で1日目の日程を終え、江渡衆議院議員に加わっていただき、青森・茨城県支部合同の懇親会に移りました。



2日目は厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長尾崎春樹氏より「保育情勢について」と題された講演がありました。やはり三位一体改革に関して地方6団体の提案と厚生労働省の考えの違い、正にその現場にいた者の声を聞かせてくださいました。また総合施設（仮称）については、「就学前の教育・伊育を一体として捉えた新たな枠組みとし、16年度中に総合施設の在り方について基本的な

考えをとりまとめ17年度に試行事業を先行実施するなどして、必要な法整備を行うことも含め様々な準備を行う。ただ、18年度からの本格実施に関しては、関連する負担金の一般財源化など国と地方の在り方について必要な法整備が整っていない為、18年4月からの本格実施は難しく、18年度中ばになるのではないか。」と言う事でした。尾崎課長から配布していただきました厚生労働部会による子育て支援対策の資料に新エンゼルプランに代わる新たなプラン（子ども子育て応援プラン）の課題として「①若者の自立とたくましい子どもの育ち ②仕事と家庭の両立支援と働き方の見直し ③生命の人切さ、家庭の役割等についての理解 ④子育ての新たな支え合いと連帯」が掲げられており、概ね10年後を展望した目指すべき社会の姿が提示してありました。これまでのプランに加え育児休業制度の取り組みの推進、年次有給休暇の取得推進等、社会全体で支援する体制に変えていこうとことのようにです。欧州（ノルウェー、フィンランド、フランスやドイツ）においては出産・育児休業給付期間後も休業又は離職し、保育所を利用せずに家庭で育児を行っている家庭に対して、在宅育児手当が支給されているという記述もあり、日本においても検討すべき方法だ思いました。

2日目の研修は以上で終了し、青森県支部坂崎隆浩支部長、茨城県保育協議会櫻井清専務理事の挨拶をいただき再会を約束しながらの解散となりました。

私は今回初めてこのような研修会に参加させていただきましたが、参加なさった皆さんは単に自園（自分）の利益の為だけでなく、広く保育界全体を考えて行動していることにとっても感心させられました。特に青森県支部の皆さんは遠いところからの参加で体力的にも、金銭的にもとても大変だったとことと思います。私も微力ながら青年部活動に関わり保育界の発展の為に活動してゆきたいと考えています。



めきうち保育園訪問 in 勝田すみれ保育園



木村園長先生と副園長先生。
副園長先生は、青年部で活躍中！



三角屋根の明り取りが印象的な保育園です。
天気の良い日は、お昼寝布団を午前中に干しています。
お日様のにおいがする布団でお昼寝っていいな・・・。



毎朝元気に先生と体操してるよ！



お迎え時の先生同士の連絡を
スムーズにする無線です。
(防犯対策)



保育園での各行事の説明が季節毎
に写真付きで飾ってあります。



与薬表には、薬を預った先生と、薬を飲ませた先生の名前を記入するようにしています。



沢山のおもちゃがあるよ！
何で遊ぼうかな？



めきうち保育園訪問 in 太陽保育園



とっても若々しい野村園長先生と、
すてきな園舎です。

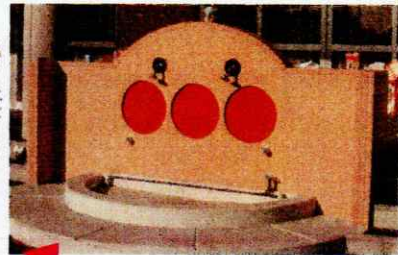


園庭は、ゴルフ場と同じ
草が敷き詰められています。
また、奥には第二グラ
ウンドがありました。



開放的なホールと、
季節毎に変る観葉植物

ホールには、メルヘンチ
クなきのこのテーブルと椅子



何かに似てませんか？
そうです子ども達が大好きな
あのキャラクターです



どこからでもお部屋の様
子が見れるように、窓がたく
さんあります。



編集後記

青年部の広報委員会に入会し、1年がたち
ました。広報委員会の「礎」編集会議・ぬき
うち保育園訪問などに同行し、
今回お邪魔した保育園の他にも色々
な保育園の先生方の話を聞いたり、園
の設備等を拝見させていただき大変参考
になりました。

青年部全体会においては、急速に変化して
いる保育行政の動きを伺うことが出来まし
た。これからも色々な青年部の行事に参加
し、自分の視野を広げつつ、様々な情報を
各園に広報誌「礎」にて報告紹介していけ
ればと思います。

二代目宗家

